

陳情第79号	受理年月日	平成30年5月14日
付託委員会	教育文化委員会	
件名	教育行政の政治的中立性の確保について	
要旨	<p>本会は、教育の正常化を掲げ、日本教職員組合などによる偏向した教育や行政との癒着などの是正に取り組んできた。</p> <p>4月14日、本市ウェルとばたにおいて元文部官僚の前川喜平、寺脇研両氏による講演会が開催された。</p> <p>福岡県は、長年にわたり知事選をめぐる保革の角逐が続き、全国でも一、二を争うほど強かった教職員組合の意を酌んだ教育行政のあり方に、心ある県民は苦悩した。文部省もエキスパートの文部官僚を派遣し、徐々に正常化を推し進めたが、その一人が講演された寺脇研氏である。昭和59年から2年間、福岡県教育委員会に当時の指導第二部第二課長、義務教育担当として赴任し、強かった福岡県教職員組合との交渉に当たり、主任主事や管理職試験に反対する現場を粘り強く説得して回ったことを講演の中でも述懐されていた。</p> <p>そのような歴史がある福岡で、北九州市も、若松高校ジャズ伴奏事件、校長着任拒否闘争、折尾高校の偏向教育事件など多くの問題があった。そうした経緯を考えると、市教育委員会による民間団体の講演会などの名義後援の可否判断は、より慎重さが求められてしかるべきだと考える。</p> <p>講演会に参加した本会役員によると、前川氏の話は、教育の話以上に政権批判のトーンが強かった。特定の学校法人を示唆する発言などもあり、元文部科学事務次官としていささか節度に欠けるのではとの疑問を感じずにはいられなかったという。</p> <p>西日本新聞と毎日新聞が、山口県下関市と本市とで後援の判断が分かれたことを、下関市は、安倍総理の地元であり政権へのそんたくではないかと報道したが、政治的に判断が分かれる内容が想定される講演を名義後援するからこそ慎重さが必要であると考えます。</p> <p>本市教育委員会は、本会役員からの問い合わせに対して、(1) 昨年度、</p>	

(続 く)

櫻井よしこ氏の講演会も後援しており、教育委員会として行政の中立性に反するとは考えていない、民主主義とは議論することにある。(2)遡及して後援を取り消すことは考えていない。(3)周知の方法に不徹底、問題があった。との回答があった。行政のお墨付きを欲する団体は多く、公認されたいとの願望は組織拡大などの思惑と相まって、往々にしてある。

今後とも教育行政の中立性確保に努め、世界に通用する日本人の育成に当たっていただくため、次のとおり措置していただきたい。

記

- 1 今回の講演会の報告書を議会としても精査し、改めて不適切な点などを指摘し、名義後援の審査過程を明らかにして、市民に公開すること。
- 2 政治的に対立する内容の講演などが予想される団体からの申請の場合、可否判断に当たり議会を含めた有識者の声を聞くなど慎重に判断すること。
- 3 教科書採択、人権・同和教育などさまざまな事案において教育の政治的中立性、行政の主体性確保に努めること。